

地域連携室ニュース

“美心” (ちむぐる)



独立行政法人国立病院機構
沖縄病院



〒901-2214

沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号

TEL : 098(898)2121

FAX : 098(898)6433 (地域連携室直通)

2022年10月 No.109 発行/地域医療連携室



【沖縄病院 診療科の案内】

- ★肺がんセンター ★外科
- ★呼吸器内科 ★消化器一般内科
- ★脳・神経・筋疾患研究センター
- ★脳神経内科 ★緩和医療科
- ★放射線科 ★麻酔科 ★病理診断科

【沖縄病院 病床数：300床】

- ★がん専門病棟：60床
- ★神経筋病棟：145床
- ★緩和ケア病棟：25床
- ★結核病床：30床
- ★地域包括ケア病棟：40床

【目次】

- 1P：表紙(緩和ケア病棟カンファレンス風景)
- 2P：統括診療部長より
- 3P：久志一朗 緩和ケア医師より
- 4P：臨床工学部門より
- 5P：放射線科取り組み
- 6P：皮膚・排泄ケア認定看護師より

基本理念

患者さまの立場を尊重し
高度で良質の医療を提供します

運営方針

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

 **GINOWAN CITY FM 81.8Mhz**
ぎのわんシティFM

毎週月曜日9時30分から当院職員による病気に関する様々な情報をラジオ放送しております。当院HPにも放送内容を掲載していますのでご覧ください。



統括診療部長より

統括診療部の取り組み



統括診療部長 比嘉 太

皆様には平素より大変お世話になっております。この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

「統括診療部」とは、聞きなれない言葉だと思いますが、国立病院機構病院に設置された部署の一つであり、多種多様な職種が連携して、診療に携わっていることを意味しています。統括診療部では、診療、リハビリテーション、臨床検査、療育指導、臨床心理、臨床工学、などさまざまな分野において専門的な知識と技能に基づいたサービスを提供しています。

すべての職種の職員がより良く安心して安全な医療の提供を目指して、日々の努力を重ねています。診療では、脳神経内科、呼吸器外科、呼吸器内科、消化器内科、消化器外科、整形外科、緩和医療科、麻酔科、放射線科、病理、の専門医が最善の医療を提供するために日夜奮闘してい

ます。また、多職種カンファランスや専門チーム(栄養管理、褥瘡管理、呼吸管理、療育指導)による病棟ラウンドなどの確実な実践をとおして、職種や分野をこえた横断的な診療体制の強化を図っています。

このコロナ禍のもと、残念ながら、入院やリハビリテーション、療育活動などの一時休止を余儀なくされることがありました。その際には、当院を利用される患者の皆様および連携を頂いている施設の皆様にご迷惑とご不便をおかけし、大変申し訳ありません。皆様のご理解とご協力に対して、御礼を申し上げる次第です。

コロナ禍を乗り越え、新たな医療の私たちを模索する中で、他施設の皆様との連携をより一層に深めていく必要性を強く感じております。職員一丸となり、頑張っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。



緩和ケア外来・病棟紹介



緩和ケア 久志 一郎 医師

日本で の緩和ケアへの取り組みは、2007年がん対策基本法が施行され重点的に取り組むべき課題のひとつに「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」が挙げられました。最終的な全体目標の中には、「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」など緩和ケアの必要性も具体的に示されました。

2008年からは、厚生労働省より「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」が発出、各都道府県での研修会に多くの医療従事者が参加され緩和ケアが広く知れ渡るきっかけとなりました。沖縄県内には、ホスピス・緩和ケア病棟が6施設ありますが、当院の緩和ケア病棟は2006年に開棟され、今年で16周年を迎えました。

緩和ケア外来は、月、水、木曜日に行い、ご家族との入院前面談が主ですが在宅療養されている 患者様の通院での症状緩和（疼痛対策、胸水・腹水穿刺など）も行っています。その後、患者・家族が入院を希望され

ている場合には、日程調整を行っています。コロナ禍の現在は、新型コロナウイルス感染症のPCR 検査が必須になり、お手数をおかけしています。

当院の緩和ケア病棟(南 6 病棟)25床を有し、がん・エイズ患者が入院の対象となります。令和3年度の他施設からの緩和ケア目的の紹介件数は388件、そのうち161件(41.5%)が入院となっています。他科からの転棟も含めると、325件の入院総数で平均在院日数27.7日でした。在院日数の詳細は、入院30日以内が75%(7日以内は約20%)、31-60日が16%、61日以上が9%であり、コロナ禍で面会可能な環境を求めて厳しい状態の中で転院されるケースも多いのが現状です。また、在宅療養で過ごされている場合、御家族の介護疲れによるレスパイト目的の入院も受け入れています。

コロナ禍での面会制限に関しては、コロナ感染症の状況に応じて多少変動ありますが8月時点では状態が比較的安定している患者への面会は週2~4回、面会人数3人(登録制)、1時間程度としています。予後数日であれば毎日の面会を許可していますが、出入りを頻回にしないようお願いしています。外来や入院に関してのご相談は、お気軽にお問い合わせください。



臨床工学部門(MEセンター)から



ME 植月 陽平

MEセンターは生命維持装置(人工呼吸器)などの医療機器を一括して保守管理を行い病院内の医療機器が安全に効率よく運用できるよう診療支援を行う医療機器管理の専門部署になります。臨床工学技士(ME:メディカルエンジニアまたはCE:クリニカルエンジニア)は医療機器の進歩により高度化された生命維持装置の保守・操作を行う技術職です。名前に臨床とつくことから医療機器だけを対象としておらず患者様と一緒に治療する業務も行っております。具体的には生命維持装置である人工呼吸器約70台の保守管理やこれらを安全安心に使用して頂けるよう



う人工呼吸器導入業務・研修会等を実施しています。また肺がん・神経筋センターを中心に腹水濾過再静注法・免疫吸着療法や手術室の機器管理などの臨床業務にも積極的に対応しております。

また新型コロナ感染症対策では人工呼吸器の整備や生体情報モニターの管理運用を行い側面から診療を支援しています。

最近の話題では新型コロナウイルス感染症対策として感染対策の強化を図る目的で紫外線照射ロボットを導入しています。【テルモ株式会社 製品名:ライトストライク】この機器(ライトストライク)は特殊な紫外線を照射して病室内やドアノブ等の接触面に付着したウイルスや細菌等を5分程度で死滅させる事ができると言われています。現在のところ県内では当院のみが保有しており、科学的にウイルス除去が証明されている機器になります。ライトストライクは新型コロナウイルスの感染拡大に伴いフル稼働で活躍している状況で院内の環境整備業務を強力にサポートしてくれる大切な仲間になっています(名前はゾーイちゃんの愛称で呼ばれています)また、病室だけでなく検査室や手術室でも使用でき医療従事者の清掃や消毒等の支援や患者様が安心して通院や入院ができるよう毎日、頑張って消毒しています。これらの医療機器を活用して安全で質の高い医療を提供できるよう努めていきます。



放射線科の取り組み ～ひとにやさしく～



診療放射線技師長 宮里 征武

放射線科と聞くと、見慣れない機器や装置が並び、聞き慣れない音が飛び交っている。硬いベッドに寝かされ検査が行われるというイメージはないでしょうか。当院ではそんな雰囲気や和らげるため、音楽をかけたり、ポスターを展示したり、一般撮影装置、透視装置の硬いベッドには寝台マットを準備するなど、少しでも患者様の不安や緊張を和らげるような雰囲気づくりを心がけております。



コロナウイルス感染症患者様に対しても素早い対応ができるよう、昨年コンテナCT (BOXCT) を導入しコロナウイルス感染者専用 CT 装置として稼働しております。車から直接、検査室へ案内できるよ

うに導線を考え、CT 室内は陰圧換気システムにて常時、室内空気の循環・入れ替えが行えるようになっております。この CT 室内にてポータブル装置による胸部撮影が行えるよう工夫されており、コンテナ内にて関連するすべての放射線検査が完結できるようになっております。

放射線科では、このような放射線検査全般を地域の医療機関でもご利用できるよう大型医療機器の共同利用を推進しております。現在利用可能装置として CT、MRI、核医学 (RI)、骨密度測定を開業医の先生方の指示のもと、検査内容に制限はございますがご利用していただくことが可能です。当院ホームページにて、共同利用の詳細について紹介を行っておりますので閲覧いただくと幸いです。また、今年度には高精度放射線治療装置が導入されます。放射線治療医との連携により肺定位照射、呼吸性移動を伴う病変に対しても照射が可能となります。腫瘍部分へのピンポイントで照射することが出来るようになり、正常部位への放射線量を減らすことが可能となりました。腫瘍組織へ高線量で治療が行えるようになったことで治療回数の減少、副作用の低減により患者負担の低減を図ることが出来ます。これにより、当院の肺がんセンターの充実が図られ、地域の方々へ当院として求められる医療が提供できるのではないかと考えております。



皮膚・排泄ケア認定看護師としての 取り組みについて



阿部 香澄 看護師

私は、当院で皮膚・排泄ケア認定看護師として働いています。

皮膚・排泄ケアとは名称の通り皮膚と排泄に関することすべてに関与しています。入院・外来患者の褥瘡と呼ばれる「床ずれ」やストーマ「人工肛門、人工膀胱」患者の便漏れや尿漏れ、皮膚トラブルをはじめ抗がん剤や放射線による皮膚障害に対するケアを行っています。

週1回褥瘡対策委員のメンバーである医師、看護師、薬剤師、栄養士と共に褥瘡が発生した患者や褥瘡発生リスクのある患者の回診を行い、寝床環境や栄養状態の評価を多職種にて行い創傷に対するケア内容の見直しや被覆材や薬剤の提案等を行っています。

また、皮膚・排泄ケア認定看護師には、ケアの実践だけではなく医師や看護師をは

じめ医療スタッフからの相談を受けケア方法について実践、指導、相談を行う役割があります。

皮膚状態をいかに守る事ができるかということが全身管理にもつながっていくと思います。多職種連携を充実させ病棟看護師と共に質の高い看護を提供できるよう取り組んでいきたいと思います。皮膚状態や排泄の問題は患者のQOL(生活の質)にも大きく影響します。

皮膚のトラブルや排泄の問題は入院中だけではなくではありません。退院後も適切なケアが継続され、患者やご家族が安心して社会生活を送れるよう支援する事が必要だと思います。

地域の中核病院として、地域連携の充実をはかり、地域住民から求められる病院として取り組んでいきたいと思っています。

地域医療連携室 便り



地域医療連携室では、当院と他の地域医療機関との連携体制を強化することで患者や家族の抱える経済的・心理的・社会的な問題など支援しています。地域の患者様や家族を支えていけるように、関係機関との連携に努めています。外来受診・入院・その他のご相談がございましたら、地域医療連携室までご連絡ください。どうぞよろしくお願い致します。

【お問い合わせ】
地域医療連携室

電話：098-898-2121(代表)

FAX：098-898-6433

